

付属資料-1. 第2回 川越市初雁公園基本計画審議会 指摘事項とその対応

項目	発言者	番号	指摘事項	指摘事項への対応
1. 計画案に当たっての検討課題の修正	委員	1	P.1 の「 史跡の維持・向上の基本方針」の「2. 絵図等の資料による旧状の復元」とあるが、通常の史跡の復元においては、古図・絵図等の残された資料と発掘調査で得られた遺構が一致するかどうか非常に大きなポイントとなる。史跡整備の場合は、遺構とその資料とが一致することが大事なので、それについて追加することで今後しっかりとした復元が可能となるのではないか。	<ul style="list-style-type: none"> 「旧状を復元する場合、古文書・古記録等の記載のみでなく、古図・絵図等に記された資料に基づき、<u>かつ発掘調査等の成果を踏まえたもので</u>、古建築等を専門とする学識者等により適正な復元として示されたものとする。」と修正する。(別添資料参照)
	2. 初雁公園整備基本計画について	委員	2	<ul style="list-style-type: none"> 「本質的価値」とは、遺構が残っていることが本質的価値ではなく、何故ここに川越城があったのかということをとらえ直すことが本質的価値なのではないか。
会長		3	<ul style="list-style-type: none"> 本質的価値につながる遺構を活かし、本質的価値を学んだり、知ったり、体感できるようにするという説明が不足している。 	
委員		4	<ul style="list-style-type: none"> 川越城址は川越藩の中心でもあるので、そういうことをもう少し明確に示してはどうか。かつて川越城址は地域にとって仰ぎ見るべきものだった、それが明治になっても城が残っているというところに非常に大きな意味があると思うので、それについて分かりやすく記載した方が良さそう。 	
委員		5	<ul style="list-style-type: none"> 「歴史公園」という表現が使われているが、「史跡公園」ではないかと思う。語彙の整理が必要なのではないか。 	
会長		6	<ul style="list-style-type: none"> 歴史公園というのは公園種別として歴史公園とするということである。 	
委員		7	<ul style="list-style-type: none"> 歴史公園として再整備する理由として、現状の規模・機能が時代のニーズに合わないので再整備するという理由付けは良くない。初雁公園は元々は川越城址だったので、運動公園から元の状態に近い歴史公園へ再整備したいという考えにする。 	
会長		8	<ul style="list-style-type: none"> 観光拠点の位置付けとしては、物の消費ではなく、体験などのことの消費で人が流れて経済が成り立つと思うので、プログラム開発などで観光関連の部局とも連携をはかりながら進めてほしい。 	

項目	発言者	番号	指摘事項	指摘事項への対応	
2・初雁公園整備基本計画について	初雁公園整備基本方針(案)及びコンセプト	委員	9	<ul style="list-style-type: none"> 「市民や観光客にとって～にぎわいを創出し」とあるが、まずは市民のための公園だということに重点をおく必要がある。基本的な考え方として市民が有効的に使うことで、徐々に観光客を呼び込むことにつながる。観光客を中心に考えてしまうとまくいかなことが多く、市民中心のコンセプトを検討してほしい。 	<p><u>の場とする。」と修正した。</u> (P2参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> 初雁公園整備基本方針(案)の1の説明文の中で「初雁公園内での史跡川越城跡の本質的価値の4点を明らかにし、<u>これを守り、市民が、川越城、川越藩が川越のまちづくりに果たしてきた役割を知り、学び、体感できるようにする。</u>」として、「市民の学習の場」である旨を追記するとともに、基本方針3、基本方針4を入れ替え、「市民の憩いの場」であることを上位にすることで市民中心であることを明確にした。(P2参照)
		委員	10	<ul style="list-style-type: none"> 前回の審議会の議論の中で川越城址の歴史の変遷の中で時代を選ばないといけないのではないかという話があったかと思うが、近現代まで歴史をまとめており、具体的な年代を選ばず時代の変遷を全て見せるという考え方なのか。近現代の初雁公園が果たしてきた役割を伝える場所とすると、運動公園も近現代の役割を果たしてきていると思うので、そこを外すと整理がつかない。慶応3年を復元の年代とするのであれば、それを前面に出した方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 嘉永元年(1848)に本丸御殿が完成し、川越藩最大の石高17万石が慶応2年(1866)まで続いたことから、復元に当っては、慶応3年頃の川越城図など詳細資料が残る、慶応3年を基準としている。したがって、慶応3年当時の絵図を参考に検討を重ねている。
		会長	11	<ul style="list-style-type: none"> 時を紡ぐ、時を織り成すというのがこういう公園にするというのにはつながっていないのではないか。長期の位置付けをしっかりと、出来るだけ慶応3年の姿に戻す。100年後でも良いのでそれくらいのことをやれるかどうかだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 市制100周年は、中世・近世の川越城・川越藩の歴史の上に、近現代の川越が発展してきた到達点でもあることより、中世・近世の歴史とともに、史跡川越城跡には庁舎、学校、文化施設などが整備され、市民活動の拠点となってきた歴史や、初雁公園は、戦後復興のシンボルとして県下で随一の運動公園として整備されてきた歴史も伝えていく。
		委員	12	<ul style="list-style-type: none"> 史跡には必ず復元ポイントが必要になってくる。残っている資料が一番多い慶応3年が一番良いと思う。史跡としての構成要素の中核部分を復元するのは当然だが、掘まで元に戻すことは果たしてそれで良いのかということになってくる。川越城址は、近世の城郭が近代に残っているという意味は大きい。現代までつないできたという意識や、戦後に運動公園にした歴史というのは大事なことなので、パネル1枚でも良いから展示することで来訪者もそのような歴史があったことがわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 川越城址整備の基本的考え方(城址公園のとらえ方と初雁公園の位置付け)のなかで、長期の位置づけを以下のように追加した。 <u>5.史跡川越城跡の遺構の顕在化を行い、長期的に川越城の総構の周知を図る。</u> <u>史跡川越城跡の遺構が確認できた場合などには、顕在化を図るとともに、城址公園への取り込みなどを検討し、川越城の全体像としての総構を見て、感じることをできるようにする。</u> (P1参照)
		副会長	13	<ul style="list-style-type: none"> 歴史にロマンを求めて、初雁公園に市民が何を求めてどのような公園になったら良いのかということ、もう少しコンセプトとして引っ張り出す必要があるのではないかと。歴史を押し付けるのではなく、楽しんでもらえるような公園となれば市民からの理解も得られ、博物館や美術館、歴史的な町並みともつながってくるのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> 以上を踏まえて、初雁公園整備コンセプトを修正した。(P.3参照)
		委員	14	<ul style="list-style-type: none"> 初雁市民プールは、かつて川越市にただ1箇所のプールだったので、市民にとっても思い出深い場所だと思う。これをしっかり受け止めて市民が納得するような解釈の仕方で、慶応3年の時代に復元するために大事なところをしっかりと受け止めて、やさしい城址公園を目指してほしい。 	
	委員	15	<ul style="list-style-type: none"> 市の政策が見えてこない議論が進みづらい。 		
	初雁公園整備の導入機能	委員	16	<ul style="list-style-type: none"> 例えば大阪城公園の中には修道館という武道館があるので、初雁公園でもただ遺構を見たり広場に作るだけでなく、使える施設として前向きに検討してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな運動施設は難しいが、防災面での本公園の位置付けを整理し、災害時の支援機能を組み入れた。 このため、初雁公園整備基本方針(案)4の説明文を以下のように修正し、新たな基本方針3とした。
		委員	17	<ul style="list-style-type: none"> 武道館は避難施設としても利用できる。 	
		会長	18	<ul style="list-style-type: none"> 前回の審議会でも防災についての指摘があったと思うが、基本方針4に該当するかと思うので、防災の位置付けはきちんとした方がよい。 	<p>「市街地の貴重な緑のオープンスペースである初雁公園は、都市公園機能を確保し、市民の憩いの場としていく<u>とともに、災害時には、防災に寄与する施設とする。</u>」と修正した。(P2参照)</p>
委員		19	<ul style="list-style-type: none"> 初雁公園の導入機能として、「公園の緑と新河岸川の水辺の環境」と記載されており、良い考えなので公園と一体となった整備がなされるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 新河岸川沿いを親水ゾーンと位置づけ、河川景観を活かした散策路等として、公園と一体的に活用する考え方を示している。(P10参照) 	

項目	発言者	番号	指摘事項	指摘事項への対応	
	委員	20	<ul style="list-style-type: none"> 新河岸川沿いの部分が新曲輪・駐車場ゾーンとなっているが、この部分を駐車場のスペースにするのはもったいない。 	<ul style="list-style-type: none"> 現状、初雁公園には、初雁公園の利用の他、川越城本丸御殿、川越市博物館、川越市美術館の利用に対応する駐車場が整備されている。また、車で来場が想定される公園については、一定の駐車場は必要であるとする。市としても中心市街地内の渋滞対策は課題であり、公園整備により駐車場問題が悪化しないよう、利用者数の予測や現状の駐車場の台数を勘案したうえで、必要台数を確保する計画とした。なお、配置にあたっては、史跡の遺構等の関係から、駐車場を配置できるエリアも限られてくる。(P9、19、20参照) 地域の住民の児童遊園として、1箇所にまとめて遊具を配置する計画としている。(P9、11参照) 	
	会長	21	<ul style="list-style-type: none"> 駐車台数を確保しようとしていると思うが、公園計画のゾーニングとしては違和感がある。利用者が多い時の対応や民間の駐車場との連携もあると思うので、資料で提案しているように1箇所に駐車場をまとめることが良いのか多面的に検討した方が良い。 		
	委員	22	<ul style="list-style-type: none"> 市の真ん中の一等地の公園の中に大規模な駐車場は違和感がある。 		
	委員	23	<ul style="list-style-type: none"> 土塁跡・園地ゾーンには現在遊具があるが、再整備計画で遊具を配置する予定はあるのか。 		
2 初雁公園整備基本計画について	その他	委員	24	<ul style="list-style-type: none"> 保存の視点から何が出来て、何が出来ていないのかを示してもらいたい。また、川越城跡の保存と管理の考え方のようなものを作成していると聞いたが、進捗状況はどのようになっているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 川越城跡の現状変更の行為の基準、エリアの取扱指針、遺構の種類ごとの取扱が示されている。(別添資料参照) 川越城跡の保存と管理に関する計画については、現在、作成しているところである。 駐車場や芝生広場から川越城本丸御殿の見え方を意識し、土塁高さを調整した。(P15、16参照) 富士見櫓跡にある御嶽神社から県立川越高校のグラウンド越しに川越城本丸御殿が見えることや、川越城本丸御殿前の市道からは、富士見櫓跡の樹木が見える状況であります。
		委員	25	<ul style="list-style-type: none"> 土塁を復元した場合に、どのくらいの高さなのかイメージをつかむために立体的なイメージ図があった方が分かりやすい。 	
		委員	26	<ul style="list-style-type: none"> 新河岸川や野球場の方から本丸御殿が見えるという考え方は重要であり、どういう風に見えるのか、見せるのかや、富士見櫓の整備もランドマーク的な意味を持ってくるので、本丸御殿から見るところがあるのかということが重要になってくる。 	
3 初雁公園及び城址公園の段階的整備	富士見櫓跡	委員	27	<ul style="list-style-type: none"> 富士見櫓は基本設計まで完了しているし、100周年を目指して整備を行えば、櫓は高い建物なのでシンボルとなるのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> 富士見櫓跡については、100周年までには環境整備を行い、安全に見学できるようにすることを優先する。なお、中期において、文化財である「櫓台保存の課題」、「建築基準法等の課題」、「貴重な緑の伐採が必要である」など、諸々の課題等の検討を行い、富士見櫓跡の整備を行っていく。(P23参照)
		委員	28	<ul style="list-style-type: none"> 富士見櫓跡の頂上からは、南東の眺望は広い。喜多院から富士見櫓のあった小高い森が見え、富士見櫓跡から喜多院の方をカメラの望遠で見ると多宝塔が見える。富士見櫓は唯一見せられる部分もあるので取り入れてほしい。 	
		委員	29	<ul style="list-style-type: none"> 富士見櫓については、議会の立場から見て質疑と答弁が一人歩きすると危険だと思う。100周年に向けてこの4年間で何をやるのかをはっきりと出した方がよい。 	
	段階的整備	委員	30	<ul style="list-style-type: none"> 短期又は中期に、三芳野神社の参道の整備を追加してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 三芳野神社の参道は、文化財の見学用の園路としての機能も有し、公園と一体に検討する必要があるため、中期の公園全体の整備のなかで、三芳野神社との協議を進めていく。(P23参照) 史跡川越城跡の本質的価値やその価値を伝える遺構を市民に知らせるために、城郭等をめぐるとのルート設定とサイン等の整備を短期に位置付けた。 城址公園展開の長期の目標を「史跡川越城跡全体をネットワーク化し展開し、発掘調査等の結果の内容を踏まえた上で、川越城の総構が視覚できるような整備を推進する。」とし、城址公園の整備を <ul style="list-style-type: none"> ➢ 帯郭門等の復元整備を行う。 ➢ 回遊路の美装化等の整備を行う。 ➢ 公有地における城址公園化や遺構についてサイン等の増強を行う。 ➢ VR・AR技術等の活用に伴う整備も行う。
		委員	31	<ul style="list-style-type: none"> 段階的整備として、何が最初に出来て、何を目印につくっていくのかという事が重要なので、もう少し整理する必要がある。どこにどのような遺構があったのかを市民へ知らせるために、サイン計画は短期の中で最初にすべきだろう。 	
			32	<ul style="list-style-type: none"> 長期はほとんど空欄となっているが、長期整備が一番充実しているべきである。 	
まとめ	会長	33	<ul style="list-style-type: none"> 時代を認識して、川越、初雁公園と周辺地域を認識して全体のストーリーを作ろうとしていることは分かるが、パットわかるようなものにはまだ足りないと思う。新河岸川等まで広げていくと小江戸や川越のアイデンティティのようなものが見えてくると思う。最終目標の長期とそれから遡って、100周年では何をやるのかの方向付けをしたらどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 初雁公園整備基本方針(案)、初雁公園整備コンセプト、初雁公園及び城址公園の段階的整備それぞれの修正を行い、反映させた。(P2、3、23参照) 	